

株式会社ハイレックスコーポレーション

**2025年10月期
通期決算のご説明
(IR資料)**

2025年12月22日

【業績・財務ハイライト】

- 2025年10月期通期決算概要（連結）
- 2025年度設備投資状況及び2026年度設備投資計画
- 2026年度通期業績予想
- 為替、関税、半導体影響

【政策保有株式売却・株主還元方針】

【事業構造改革と成長戦略】

- 既存事業の構造改革
- ドアシステムサプライヤーへの変革
- 更なるシナジー創出に向けて
- ESGの取り組み

【業績・財務ハイライト】

2025年10月期通期決算概要（連結）

決算サマリー（連結）

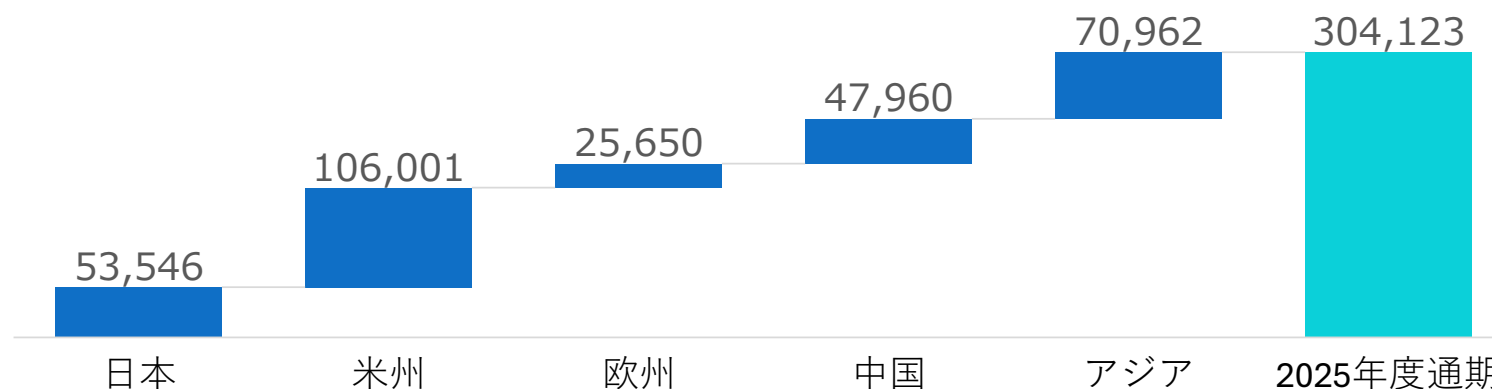
- * 売上高は、主に北米事業、欧州事業での主要顧客の販売低迷により減収となる。
- * 営業利益は、主に前年発生した北米事業での一時費用が解消されたことにより増益となる。

(百万円)

	2025年10月期 通期実績	2024年10月期 通期実績	増減額	増減率
売上高	304,123	308,382	▲4,259	▲1.4%
営業利益	3,391	365	+3,026	+828.9%
経常利益	7,272	2,727	+4,544	+166.6%
当期純利益	8,419	1,973	+6,446	+326.7%

セグメント別売上高

■ 連結売上高 2025年度通期 セグメント別



■ 連結売上高 対2024年度増減 セグメント別



TOPICS

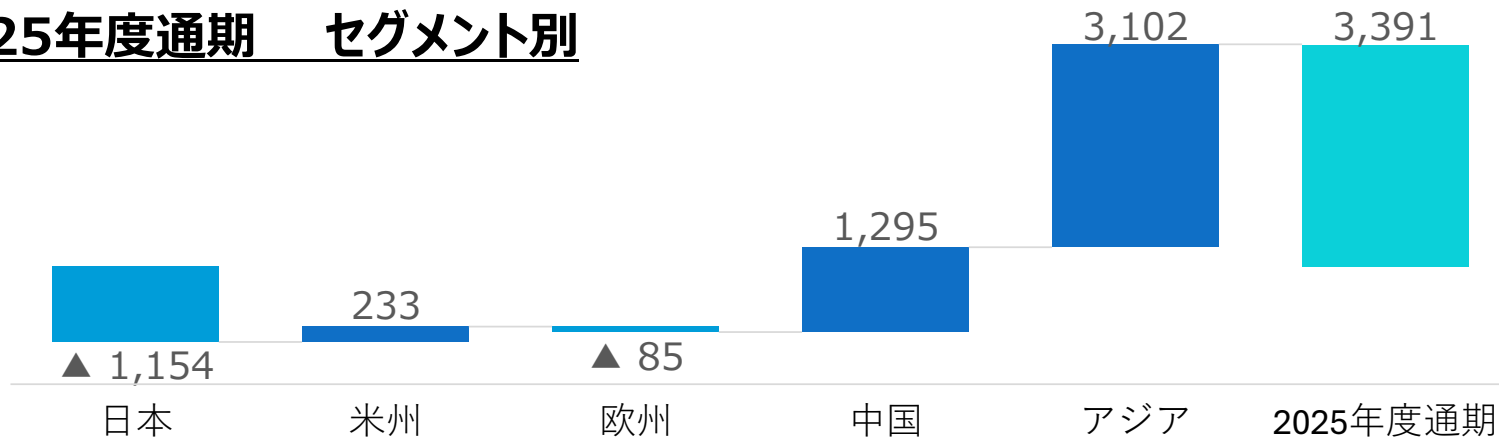
増収: 日本はパワーリフトゲートの増加

減収: 韓国・インド（アジア）・欧州は当社取引顧客の伸び悩み

セグメント別営業利益

(本社費等の調整額は日本セグメントに含む)

■ 連結営業利益 2025年度通期 セグメント別



■ 連結営業利益 対2024年度増減 セグメント別



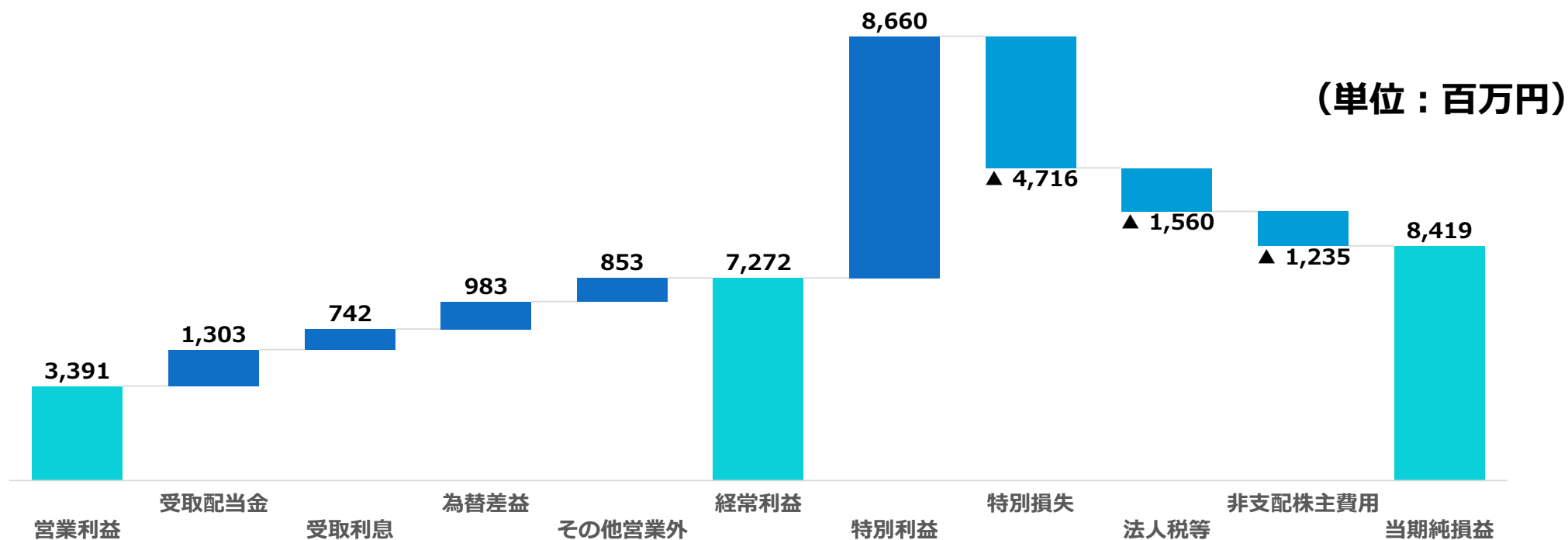
TOPICS

増益：米州は前年発生した一時費用が解消、中国は拠点再編で操業度UP

減益：日本は高利益製品の販売低下、アドバイザー契約費用発生
欧州は操業度低下による影響

営業利益～純利益（連結）

- 主な営業外収益・費用は、受取配当金1,303百万、為替差益983百万円等
- 主な特別利益/損失は、有価証券売却益7,416百万円、製品保証引当金戻入額1,130百万円、退職特別加算金▲1,449百万円（拠点清算）等



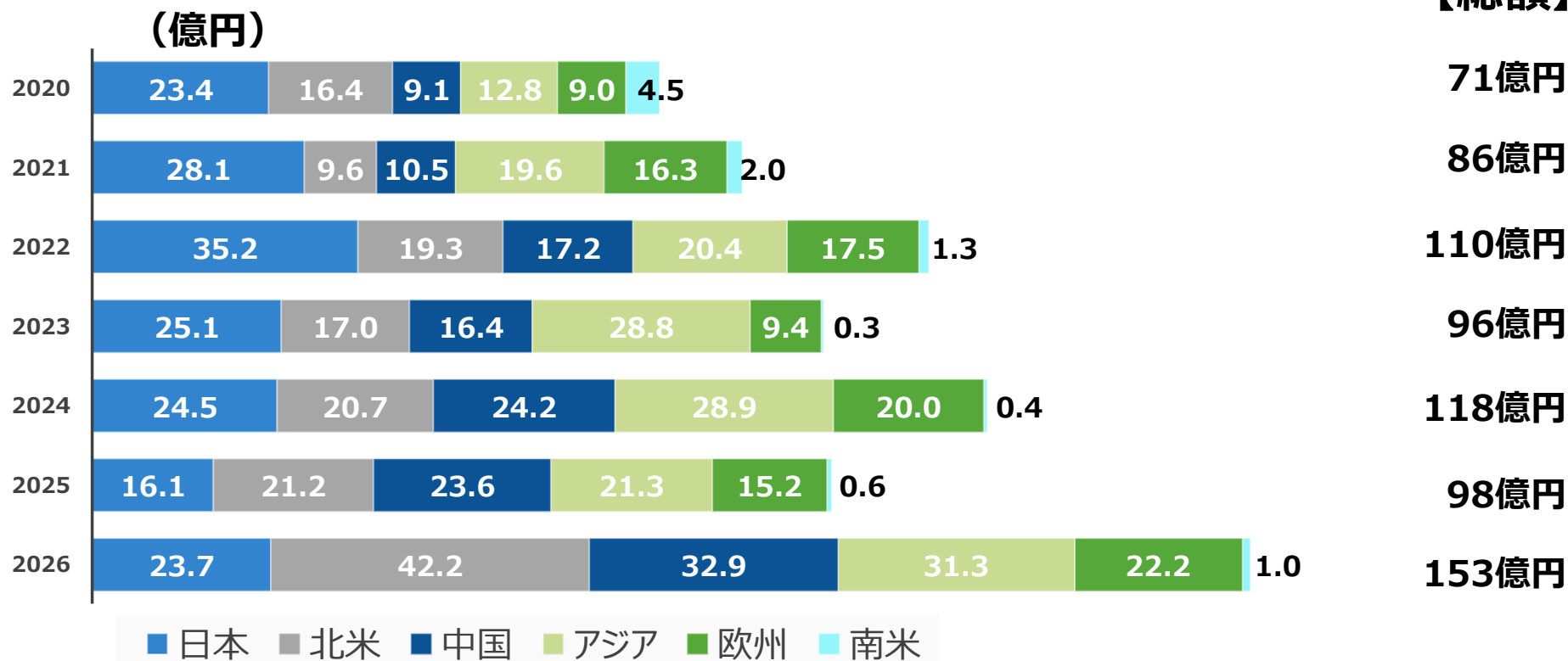
2025年度設備投資状況及び2026年度設備投資計画

設備投資の状況

2025年は期初に計画した通り、98億円の設備投資を実行。（アクト含まず）
2026年は総額153億円の設備投資を計画。（アクト36億円を含む）

- * 日本、北米は生産拠点の最適化にともなう投資等
- * 中国、アジアは生産設備への投資等

【総額】



(予想)

2026年度通期業績予想

2026年度 通期業績予想（連結）

26年度の通期業績予想はハイレックスアクトグループを含む。
当期純利益の予想については、ハイレックスアクト子会社化に伴う
“負ののれん”、25,000百万円を含んでいる（金額は第1四半期決算で確定）。
(百万円)

	2026年10月期 通期業績予想	2025年10月期 通期実績（アクト 含まず）	増減額	増減率
売上高	401,000	304,123	+96,877	+31.9%
営業利益	5,400	3,391	+2,009	+59.2%
経常利益	※6,500	7,272	▲772	▲10.6%
当期純利益	28,500	8,419	+20,081	+238.5%

※為替差損益を含まず

26年度想定為替レート： ¥148.00/\$、¥21.00/元、¥165.00/€

25年度適用為替レート： ¥149.19/\$、¥20.67/元、¥164.89/€

為替、関税、半導体影響

為替、関税影響について

為替変動が当社業績へ与える影響について

当社グループの特長「現地生産・現地納入」

ビジネス面での為替リスク 低

連結決算における海外グループ会社の業績の邦貨換算では影響あり

1米ドルが1円、円高に振れると年間売上高▲1,000百万円、年間営業利益▲15百万円 変動見込

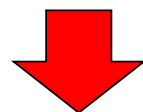
北米事業における関税影響について（日本/中国/韓国/アジアから輸入部品有）

- 2025年度における北米事業の関税影響について、約**5.8百万ドル**の影響。（4月から約半期）
- 2026年度における関税影響予測は、約**13.0百万ドル**と2025年度の約**2.2倍**となる見込み。
- 関税影響分を100%回収できる顧客がある一方で、50%程度の承認しか得られていない顧客も存在。
一部顧客から、関税影響抑制の改善計画提出等を求められている。

⇒ **回収率を上げるべく、顧客との交渉を継続する。**

2026年度当社への影響予測

- ネクスペリア問題に端を発した半導体不足の影響について、北米地域の一部顧客で10月末から生産影響が発生。
- 影響は年内に収束する事が見込まれるが、北米地域で約4.2百万ドルの売上減少。



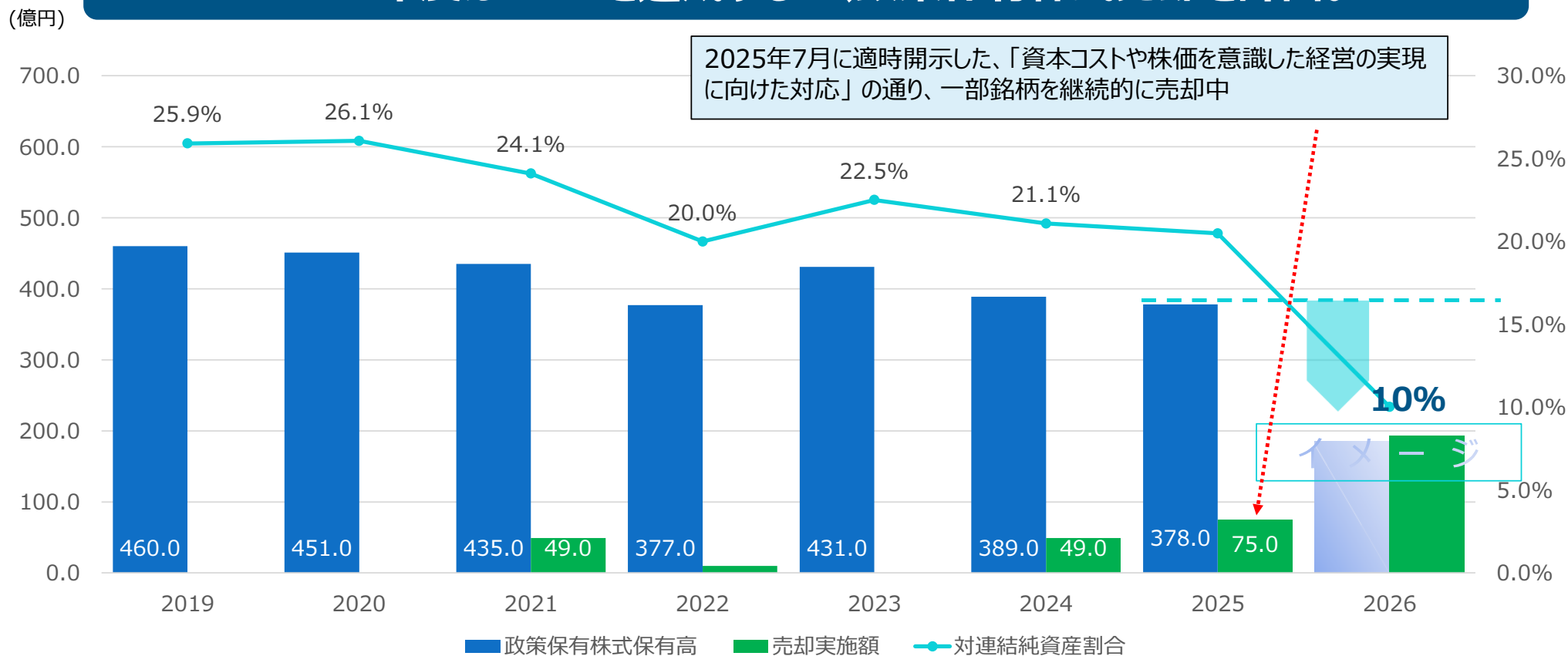
- 年末年始までは人員削減、稼働日削減で対応。
- 日本を含む他セグメントでも半導体不足の影響が発生する可能性が高く、引き続き動向を注視していく

【政策保有株式売却・株主還元方針】

政策保有株式に関する取り組みについて

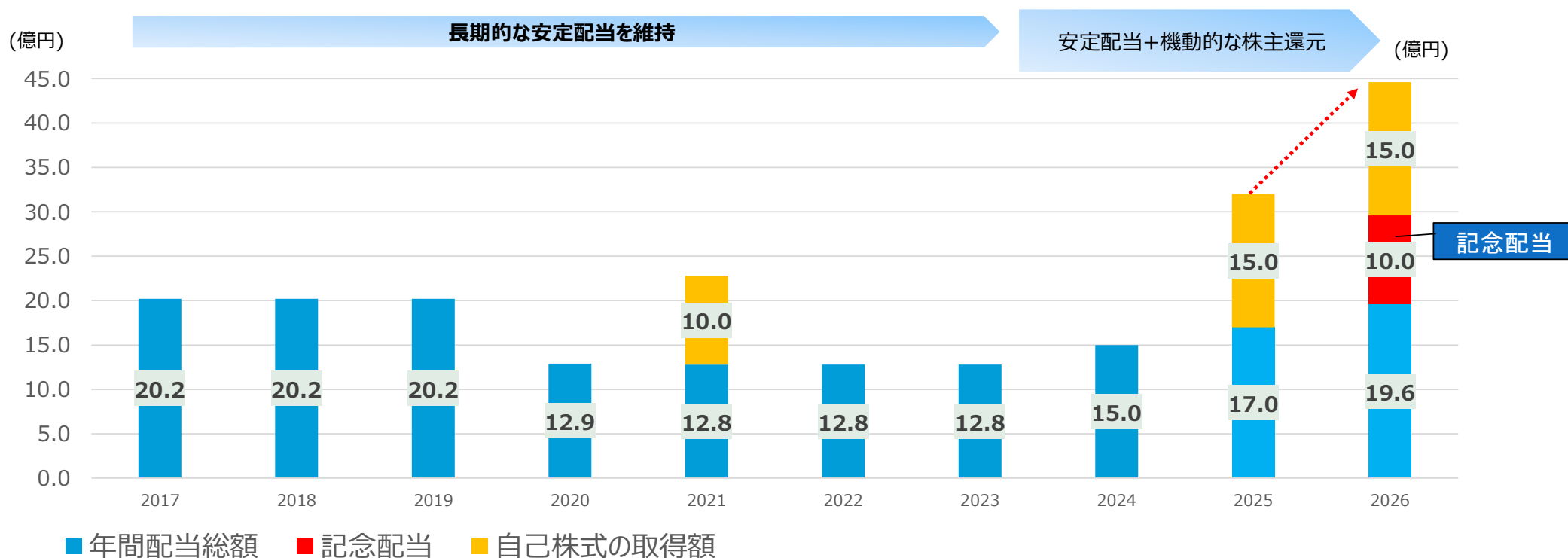
政策保有株式保有高…対連結純資産比10%をターゲットとする。

2026年度は10%を達成するべく政策保有株式売却を計画。



株主還元について

- 長期安定的な配当を継続する
- 自社株取得を機動的に実施する
- 26年度は創業80周年を迎え、記念配当も行う



基本方針：長期的な安定配当を維持

成長
投資

人財投資
新製品開発
M&A

株主
還元

安定配当
自己株式取得

構造
改革

生産キャパシティ最適化
工場生産のDX化



バランスを取りながら総合的に判断

【事業構造改革と成長戦略】

既存事業の構造改革

自動車事業の課題への対処

事業構造改革：生産キャパシティの最適化（日本）



国内9工場の課題

- ・労働人口の減少
- ・稼働率の低下
- ・内製化率の低下
- ・自動化の遅れ
- ・多品種少量生産への対応不足

国内拠点の最適編成が必須

2025年度に最適編成の方向性を決定、2026年度から順次、具体化に取り組む

自動車事業の課題への対処

事業構造改革：生産キャパシティの最適化（海外）

イメージ図

欧州事業

・スペイン生産拠点の清算

中国事業

・中国煙台から
・ベトナムへの製品移管

北米事業

・トランプ関税影響度の確認の為、一部統合計画は保留
・ミシガン州の生産5拠点の内、1拠点の閉鎖
・物流拠点追加で物流簡素化

アジア事業

・韓国からベトナムへの製品移管

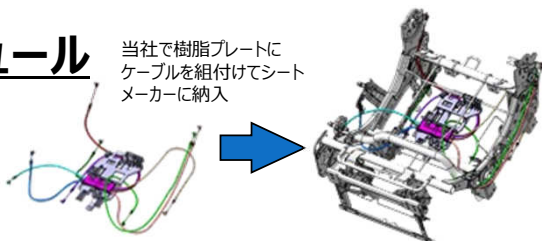
2026年度も更なる最適化を計画に織り込み、続行中

新製品及び新顧客の開拓（2025年度実施）

- 日本事業（モジュール化/パッケージ化への対応）
新製品シートモジュールの開発
海外実績のあるドアモジュールの日本展開推進

シートモジュール

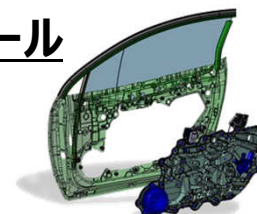
当社で樹脂プレートにケーブルを組付けてシートメーカーに納入



【シートメーカー】
現状はケーブルを一つ一つ組付けていたが、ケーブルなどをモジュール化する事で簡単に組み付けることが出来る

ドアモジュール

WR・スピーカー・ECU・ハーネスなどを樹脂のプレート（モジュールプレート）に先組してドアに組み付ける。



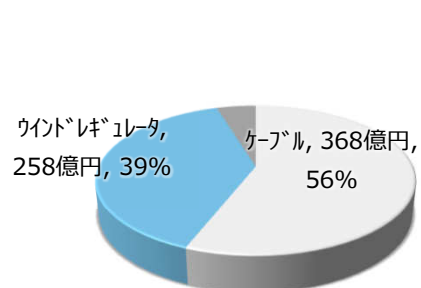
- グローバル事業
3社の新規顧客開拓
（大型トラック、ピックアップトラック、BEV）

ドアシステムサプライヤーへの変革

当社の製品ポートフォリオの変遷

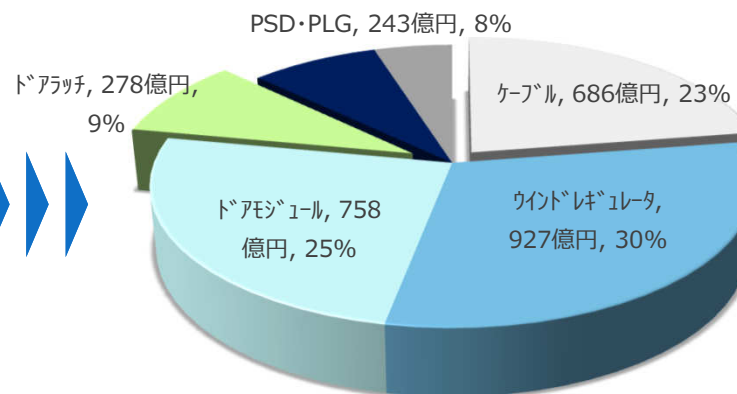
2000年度
連結売上高 657億円
ドアラッチ売上高 0億円

ケーブル関連 56%
ドア関連 39%
その他 5%



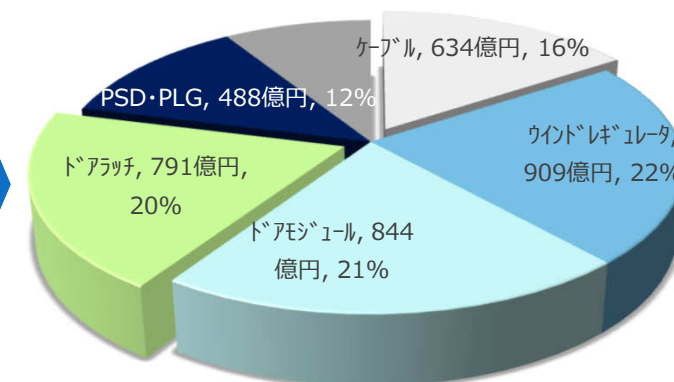
2025年度
連結売上高 3,041億円
ドアラッチ売上高 278億円

ケーブル関連 23%
ドア関連 72%
その他 5%



2026年度予測
連結売上高 4,010億円
ドアラッチ売上高 791億円

ケーブル関連 16%
ドア関連 75%
その他 9%



- 2000年では、当社グループの連結売上高の半分以上をケーブルが占めている。
- 2024年では、ドア関連（W/R、ドアモジュール、ドアラッチ、※PSD・PLG）が7割を占めている。
- 2026年予測では、アクト社をグループに加え、ドア関連は75%まで増加見込み。

※PSD：パワーライドドア PLG：パワーリフトゲート（PBD：パワーバックドア、PTG：パワーテールゲート等顧客によって呼称が違うが、ハイレックスはPLGを標準）

ドアシステムサプライヤーへのロードマップ

祖業のケーブルサプライヤーからドアシステムサプライヤーへ

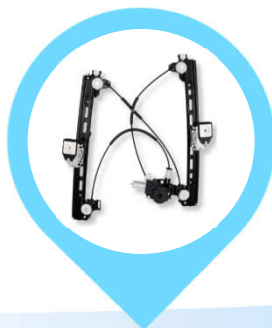
ケーブル

Transmission
Parking Brake
Actuator
For Sunroof



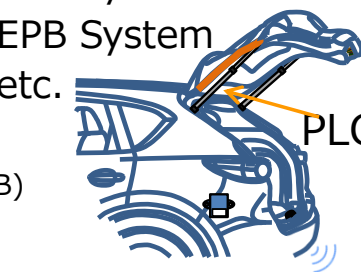
アクチュエーター

Window Regulator
Power Lift Gate(PLG)
Electric Parking Brake(EPB)
Fuel/Charge Lid



コントロールユニット

PLG System
EPB System
etc.



モジュール

Door Module
Seat Cable Module



当社モジュール製品へ
制御技術を統合する

ドアシステム

Transformation into a
Closure System Supplier
・Power Lift Gate
・Power Hinge Door



ハイレックスアクト社をグループ会社へ

FY2025

ドアシステム
サプライヤーへ進化

技術融合によるドアシステムイメージ

ハイレックスの商品/技術

ドアシステムへの融合

アクトの商品/技術

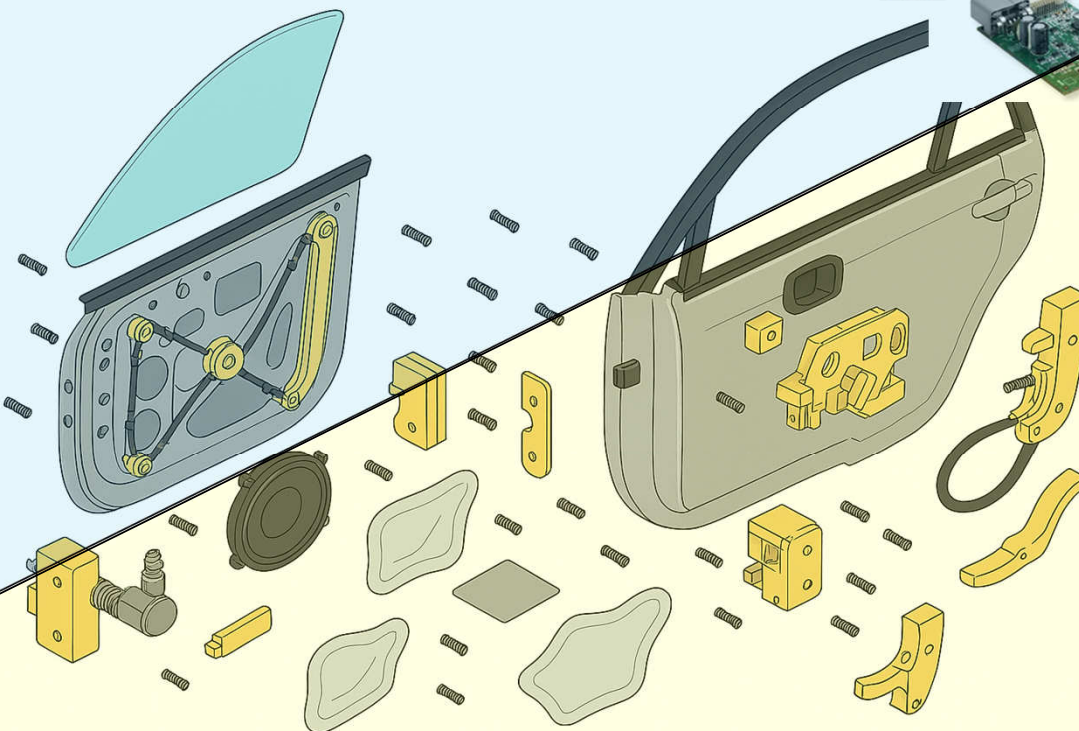
HI-LEX CORPORATION



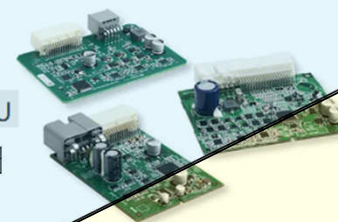
ウインドレギュレータ



ドアモジュール



ECU



サイドドアヒンジ



チェックリンク



フルカバー
タイプ



アクチュエータ
一体型



小型車用

ラッチ

HI-LEXアクト

アクト社との協働でドアシステムサプライヤーへの変革を加速させる。

ドアシステムサプライヤーとしての地位確立に向けて

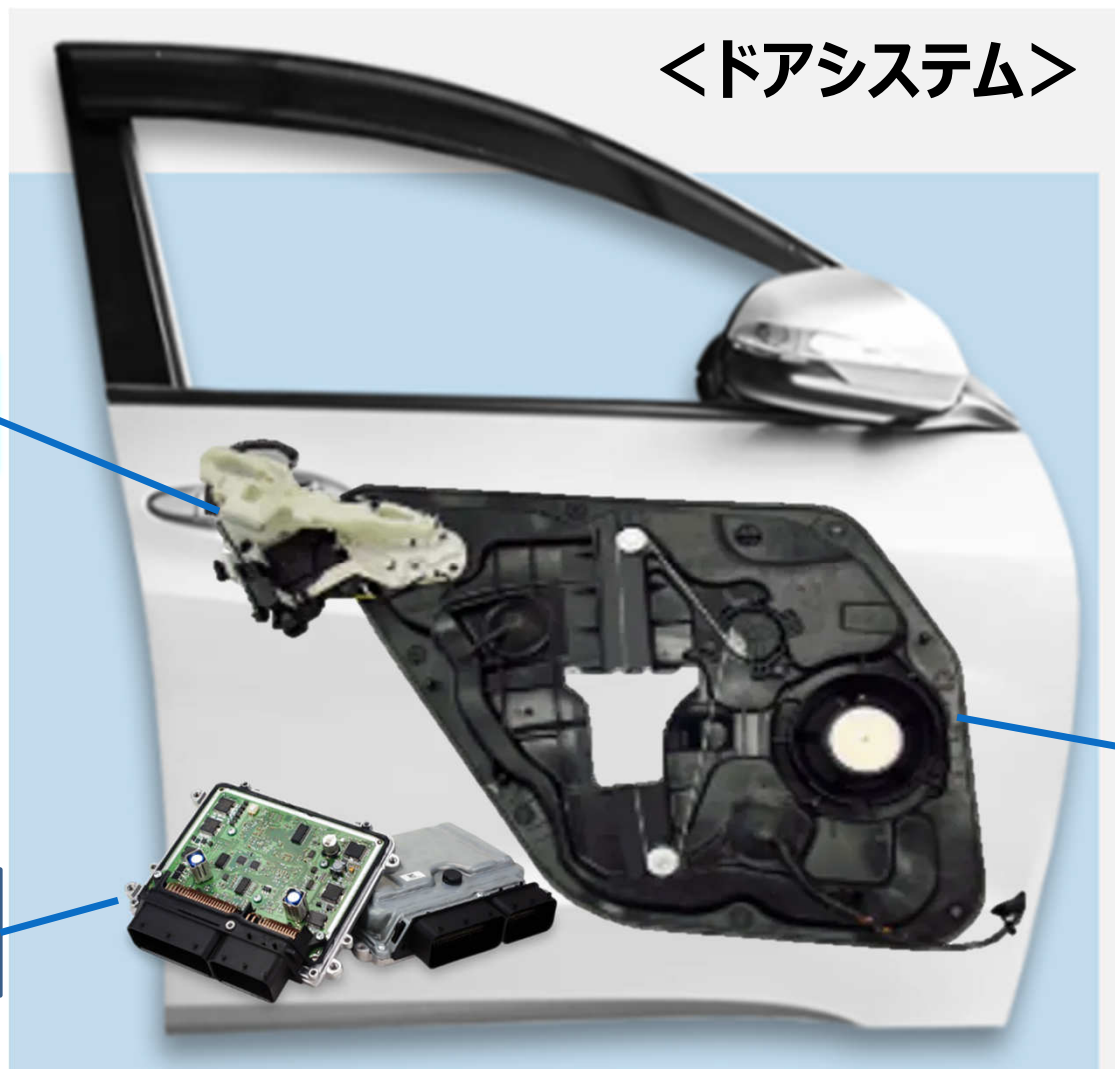
<ドアシステム>

ドアラッチ

ドア ECU

アクト社との
最重要シナジー

ウインドレギュレータ
ドアモジュール



更なるシナジー創出に向けて

更なるシナジー創出に向けて

CFT（クロスファンクショナルチーム）を11月初旬に組成し、情報交換開始
・100日間でアクションプランを策定予定



シナジー創出テーマ（例）

- ①双方の技術力や開発力の相互活用
- ②内製化比率の向上
- ③資材の共同購買等による原価の低減
- ④双方の生産キャパシティの全体最適化による稼働率の向上や物流費の削減

ESGの取り組み

【環境】高効率なサンゴ増殖の研究 – 関西大学との共同研究



サンゴ礁の再生と
二酸化炭素固定を両立する
技術で地球環境改善へ貢献

大阪・関西万博で紹介



「ポリプ」と呼ばれる約1mmの小さなサンゴ組織



【環境】 ハイレックス宮城



2025年3月 太陽光パネル設置

宮城グリーン電気
調達開始

2025年12月～
CO2排出量実質0化達成

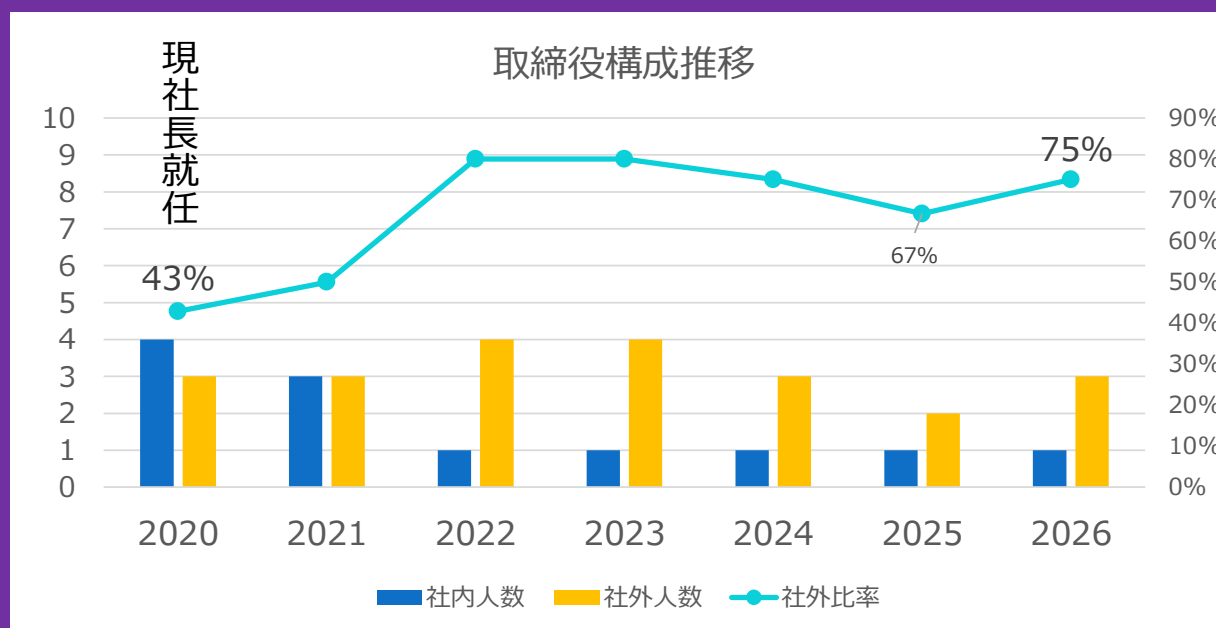
【社会】 ハイレックス宮城

■ 親子工場見学会実施



【ガバナンス】 取締役構成—社外比率

一般的比率（約40%）を大幅に超える75%へ（2026年1月）
透明性と多様な視点を強化



HI-LEX CORPORATION

これからも魅力ある技術と人財に磨きをかけ、
お客様に困り事があればまず最初に声をかけていただける会社、

『 To be the First-Call Company 』
for Customer's better choice !!

を当社のミッションステートメントとして掲げ、
その一つ一つのご縁を大切にHI-LEXコーポレーションは発展し続けます。

注意事項・免責事項

本資料は情報提供を目的として作成されており、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社により作成されております。これら記述は将来における業績達成を保証するものではなく、国内外の予測困難なリスクや不確実性による影響を受けた結果、実際の業績等は見通しと異なる結果となる可能性があります。

当社は本資料の情報を利用した結果生じたいかなる損害に関して、一切責任を負うものではありません。

本資料に記載されている情報について、資料作成後の新たな情報の発生に伴い将来の見通しに関する記述を更新もしくは改訂することを当社は約束するものではありません。

本資料に記載されている情報の内容については、予告なしに変更される可能性があります。